

前置き表現としての呼称の使用に関する調査研究

王 亜 婷

1. 研究背景と目的

王（2019）は、『小時代 I』『杜拉拉升职记』『中国合伙人』という中国の映画における前置き表現181例を分析し、中国語における前置き表現の特徴を考察した。それらの結果と日本語の前置き表現用例を比較し、両言語の相違点について分析した。調査結果では、中国人母語話者は「呼びかけ」が多用されている。日中両言語は「呼びかけ」の使用について、大きな違いがある。現代中国語では、会話中に適切な「呼称」を使うことは重要であり、相手の「呼称」を使用しないで直接的会話を始めることは失礼である。適切な呼称の使用は、相手に親近感を表す表現になるし、更に発話者の意図をはっきり表すことができる（卢2001）ということがわかった。

その原因は、日本語では、多様な場面や目的に対応するための表現形式などを使用することができるが、文（2017）は、中国語は孤立語であり、中国語は日本語のような敬語や補助動詞がないため、様々な発話行為に円滑に対応することができない場合が多い。日本人は発話行為をする際に、相手の「呼称」を使わず、「あの～」「すみません」などを会話の始まりとして使い、礼儀を欠かさない。しかし、中国語では、各場面で「呼びかけ」をよく使われている。相手が知らない人であっても、会話をする時「呼称」も使われている。現代中国語では、会話中に適切な

尚

的会話を始めることは失礼であると述べている（筆者訳）。「呼称」は単純な「呼びかけ」ではなく、「呼称」によって、話し手と聞き手の親疎関係・上下関係・社会地位などの社会要素が推察できる。現代中国語ではどのように相手に呼ぶかという問題が非常に重要になる。

そこで、本研究では、中国の映画を研究資料とし、各映画に現れた前置き表現としての呼称の用例を考察する。また、「依頼」「断り」「誘い」「尋ねる」等という言語行動について、場面の異なりや親疎関係等の社会要因が与える影響の分析を十分に行うことによって、それぞれの言葉に潜んでいる文化的要因や社会、および心理の分類等社会言語学の観点から考察することを明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

本研究では、7本の映画に現れた前置き表現を含む場面を抽出して、文字化した使用例を分析する。

2013年前後に放映された中国映画から7本を選んだ。それらは、職場題材の映画5本、生活題材の映画2本である。収集した前置き表現は396例で、そのうち、呼称を用いて用例は136例であり、3割を占めている。本研究の例文における（ ）内の数字は前置き表現が含まれる会話の出現時間、傍線部は会話の中の前置き表現箇所を示す。データを収集するとき、社会的要因と心理態度を考慮したいため、会話者の年齢・性別・関係、および前置き表現の行われた場合という要素も考察した。以下の表1は7本の映画から収集した前置き表現の統計結果である。

表 1：前置き表現の出現数

題材	映画	放送期間	前置き表現用例 (396例)	呼称の用例 (136例)
職場	中国合伙人	2013年	93	14
	杜拉拉升职记	2010年	78	14
	格子间女人 (第一話)	2014年	52	21
	蚂蚁的梦想	2013年	68	36
	奋斗	2011年	61	28
生活	小时代 I	2013年	10	1
	等风来	2013年	34	22

3. 呼称に関する先行研究

3.1 文化背景と呼称

中根（2005）は、日本人の集団意識が職業・年齢・性別等の「資格」ではなく、職場や学校という「場」に置かれているということで「ウチの者」と「ヨソ者」との区別を明確にするのが集団存続のために不可欠であると説いている。

また、北山（2010）は、日本のように集団主義でウチ・ソトの意識が強い垂直型文化社会では、個人は親しくなるまで自分の本当の気持ちを明かさないとされる。日本では上下関係に適する間接的な呼びかけが、英米では、仲間意識を助長する個人向けの呼びかけが使用されていることになる。日本では、年齢や地位の上下が呼称の選択を決定する。それが、それぞれの文化圏の「建前」だと言える」と述べている。

次に、呼称には、対人的な距離を大きく取る「敬避的な要素（敬称）」と距離を小さくする「共感的な要素（親称）」があると指摘し、以下に定義している。

「遠隔化的呼称」：目上の相手に対しては、相手に直接触れないように、相手の'人'ではなく、方向や場所等で呼ぶ。

「共感的呼称」：目下や対等な相手と呼ぶ際には、相手の'人'を直接的に名指すために代名詞や名前を使う。

三

3.2 呼称を選ぶ要因

ト (2004) は、呼称は言語において、人に対し尊敬や親近、また、疎遠や憎悪等々の感情を程度別に表すことができ、社会言語学的にも心理言語学的にも意味を持っているため、長い間盛んに論じられてきたと述べている。相手の情報の有無、社会的・職業上の地位・年齢・性別・国籍の違い、親疎の度合い等の社会要因と怒りや愛情等、話し手のその場の高揚した感情も呼称の選択に大きな決め手となる (北山2010)。

3.3 呼称のポライトネス

ト (2004) は、呼び方は敬意表現の重要形式であると冒頭で述べたが、その敬意表現において、言語一般的ポライトネス理論の応用ができると思われると述べている。

Brown & Levinson (1978) は社会学のフェイス理論を取り入れ、体面或いはメンツ維持上で、他人に邪魔されたくないネガティブ・フェイスと、他人に好まれないポジティブ・フェイスを提示し、この2種類のフェイスを保つための言語ポライトネスを、ネガティブ・ポライトネスとポジティブ・ポライトネスに分類した。それを以下のように定義している。

ポジティブ・ポライトネとは、聞き手のポジティブ・フェイスに向けられるものである。聞き手の欲求を話し手も望んでいると示すことで、相手のポジティブ・フェイスに配慮するものである。それに対し、ネガティブ・ポライトネとは、主に聞き手の、自分の縄張りや自己決定権を維持したいという基本的な欲求であるネガティブ・フェイスに向けられており、それを補償し、満足させようとするものである。(ポジティブ・フェイス：相手と親しくなりたい、仲間意識を共有したい。ネガティブ・フェイス：相手から侵害されたくない、独立を保ちたい)。

次に、芳賀 (1978) は、何と呼ぶのが相手に相応しいか、相手に失礼ではないかと「テレくさい心理」が原因だと思われる。これは、社会礼儀的思考、相手を侵害しないような配慮であり、つまり、ポライトネス

心理—ネガティブ・ポライトネス心理からなるネガティブ・ポジティブ・ストラテジーが働いていると述べている。これに対し、ト（2004）は、中国語の“叔叔”（shu shu、おじさん）の場合は、話者が積極的に社会的距離を縮小させ、親密かつ好感を示すポジティブ・ポライトネス心理による言語行動と認識でき、明らかにポジティブ・ポライトネス・ストラテジーであると述べている。

更に、滝浦（2007）は、“親密さ”の表現を以下に述べている。

本来他人である人物を虚構的に親族と見なす点で、その分だけ相手との距離を縮める効果を生むからである。親族でない他人を呼ぶ「おねえさん」も、この観点からすればれっきとした近接化的なポジティブ・ポライトネスである。

3.4 日中呼称の使用について

高木・宋（2012）は、対称詞の待遇性による使用制限について、日本語・朝鮮語・中国語の社会言語学対照の観点から考察した。日本語と中国語における呼称の言語形式の違いは以下に述べている。

- a. 日本語には呼称接尾辞「～さん」などがあり、中国語には呼称接頭辞「老～」と「小～」がある。
- b. 鈴木（1999）では、日本の親族内で話し手が目下に対し親族名称で呼ぶのは不可能と述べている。中国語では、親が息子に呼びかけることができる。ここでの親族名称は、話し手と聞き手の親子関係などの「ウチ」を表す語である。
- c. 「苗字+名前」のフルネームの呼格的用法

フルネームで呼びかけることは、名前で呼びかけるより、聞き手との距離を置くものであるため、聞き手に対する怒りや非難などのネガティブな意味を表すことも多い。この意味では、フルネームによる呼びかけは、日本語では見られない用法である。

呼びかけ語の主な機能は、聞き手に対する注意喚起であるが、中

国語では注意喚起の機能以外に、話し手の発話時の聞き手に対する暫時的な感情を表すことができる。

4. 調査結果

4.1 各場面における呼称の用例分析

蒲谷宏、坂本恵（1991）によると、待遇表現の研究においては、すべての表現が研究対象となる。待遇表現という術語は、「上下親疎」の「人間関係」すべてを含み、「場面を重視する」。また、場面とは、物事が行われているときの状態・事情・局面ということである。その程度の場面に応じた配慮を基本とした言葉遣いについて留意することが必要となる（張2014）。

本研究では、「依頼」「断り」「尋ねる」「意見表明」等という言語行動について、場面の異なりや親疎関係等の社会要因が与える影響の分析を行うため、会話における場面によって呼称が用いる前置き表現をまとめた。まとめた内容は表2の通りである。また、各場面における呼称が用いる前置き表現用例を分析する。

表2：場面による前置き表現の統計結果

会話場面	前置き表現用例	呼称の使用例
依頼	75	24
断り	39	4
誘い	7	3
謝る	11	7
尋ねる	30	23
意見表明	117	32
状況説明	75	27
自己釈明	3	1
準前置き表現	25	1
その他（感謝、命令など）	14	14
合計	396	136

兌

4.1.1 「依頼場面」

和田（2008）は、「依頼表現」は、前置き・本題・終結という構造を持つ。前置きには、「よびかけ」「謝罪」「状況説明」「理由説明」などがある。日本語母語話者の場合、この前置きの部分で、相手の状況を探ったり、本題に入る前のポライトネス・ストラテジーを使っている。それに反して、中国人日本語学習者は、前置きがなく本題に入るケースが多いと述べているが、本研究結果は、中国語母語話者が、前置きとしての呼称をよく使用していることを示している。

表2に示すように、中国映画に見られる前置き表現使用例においては、「依頼」の場合では、呼称の使用例が3割を占めている。何か依頼する際に、中国人は主題に入る前に呼びかけを先に立たせ、その後に来る主要な言語内容は話し手の欲求であることがうかがえる。

例えば：

① 老板，我想请个假、我老婆吧、昨天晚上拉肚子。

（社長、休暇を取りたいです、妻は昨夜下痢をしましたから。）

（奮斗3：42）

※場面説明：電話で、向南（部下、30代男性）が会社の上司（40代男性）に依頼発話している。

② 张总，我想代表公司参加“青年建筑师大赛”、您可以帮我盖个章吗？

（張部長、“若手建築家の試合”に参加したいのですが、ハンコを押しただけですか。）

（奮斗6：06）

※場面説明：会社で、陆涛（部下、30代男性）が张经理（上司、40代男性）に話している。

③ 姓张的，这是你第38次让我改图了、我希望这是最后一次

（姓张的、図を訂正するのは第38回目ですが、これで最後に願います。）

（奮斗5：00）

※場面説明：会社で、陆涛（部下、30代男性）が张经理（上司、40代男性）に話している。

六

④ mini姐、那以后就拜托你多多照顾了

(おねえさん、今後よろしくお願いします。) (格子间女人21:44)

※場面説明：会社で、会社の新社員(20代女性)がmini(上司、30代女性)に話している。

⑤ 徐总，你可以帮帮我吗？我想跟您借笔钱。

(徐部長、助けてもらえますか？お金を借りたいですが。)

(奋斗1:00:30)

※場面説明：陆涛(30代男性)と徐志森(60代男性)の会話である。

例①は、「呼びかけ+本題+理由」という構造の用例である。ここでは、話し手は「すみませんが」等の前置き表現を使わない、そのまま相手に対して敬意を持った呼び掛けに用いられる。このような用例はよく見られた。

例②と例③は、会社内の社員と部長の会話であり、同じ場面で、同じ話し手と同じ聞き手は、話し手の感情と心理によってそれぞれ異なる呼称を使うと見られる。例②では、社員が部長に依頼する際に、「張部長」を呼びかけており、相手に対する尊重の意識が見られる。しかし、例③の場合、「姓张的」は字面的に訳すと、姓は張の人という意味である。ここでは、「姓张的」という呼称を先に発話しており、相手に関する話し手の「怒り、不満」などの心理が推測できる。また、呼称を選ぶ要因は話し手の感情の影響もあると考えられる。

例④の場合、会社内で新社員は上司に親族呼称を使用している。日本語では、親族外の人に対して、「おばさん」「おねえさん」等の親族呼称を使用するのに対し、中国語では、例④のように、「名+親族呼称」という親族呼称の虚構的用法がよく使用されている。ここでは、新社員は上司に親族呼称を用いて、上司との心理の距離感を縮小させることで、上司に好感を示す「ポジティブ・ポライトネス」心理が観察できる。中国語の親族呼称に関して考察したことは本研究の5.2を論じている。

例⑤については、話し手（陆涛）は聞き手（徐志森）の息子であり、小さい頃から聞き手（父）の扶養を受けなかった。ここでは、話し手は聞き手に「お父さん」と呼びかけずに、相手の職名「徐部長」を使用している。父との距離感が大きく親近度は小さいと見られる。話し手にとって、「お金を借りたい」という依頼があるにも関わらず、相手との血縁関係について認識されないということがわかった。距離を置く「ネガティブ・ポライトネス」心理と思われる。

以上の分析を通じて、中国語では、職場においても「親族呼称」が使われているということがわかった。また、依頼場面で呼称の選択には、相手との上下関係だけではなく、親疎関係・血縁関係も大きな要因となると考えられる。

4.1.2 「断る場面」

表2に示すように、前置き表現において、「断り」の場合では、呼称の用例が少なく、4例である。周（2013）は母語話者と学習者は上下・親疎にかかわらず、「詫び」を多用していることがわかって述べている。本研究では、調査結果は周（2013）と同じ傾向が見られる。例⑥のように、断る場面で中国人は「詫び」をよく使っている。

また、周（2008）は、断る場面における「前置き」全体の使用率について、中国人日本語学習者と日本語母語話者を比較した結果、日本語母語話者はほとんど「感謝」を使っていない。日本語母語話者の話によると、日本語の断る場面では、断りたいのに、始めに感謝の意を示すと、違和感を覚える人が少なくないと述べている。それに対して、今回中国語の用例のうち、例⑦⑧のような「呼びかけ+感謝+断る内容」「感謝+断る内容」の用例も見られた。例⑦の場合、上司は部下の計画について、審査が通らないということを伝えている。ここでは、断る内容の前に呼称と感謝を使用することによって、相手への配慮を示している。中国語では、断る場面において、上下関係に関わらず、始めに感謝の意を

示してから、直接断るほうが相手にとって、やわらかく聞こえ、納得しやすい。呼称の使用は任意であると考えられる。

⑥ 对不起、如果没有约定不让进。

(すみませんが、予約しないと入場できません。)

(蚂蚁的梦想 18:45)

※場面説明：工場のサービスカウンターで、工場管理者（20代男性）が30代女性に話している。

⑦ 陆涛，谢谢你，你的公测改建计划2.0版本没通过、上边说了、你的设计十分新颖、富有创意、不过就是不切合实际、所以无法采纳。

(陆涛、ありがとう、公衆トイレの再構造計画は審査を通らなかった。デザインは革新的だったけど、実際の状況に沿っていないから、採用できなかった。)

(奋斗38:50)

※場面説明：会社で、潘经理（上司、40代男性）が陆涛（部下、30代男性）に話している。

⑧ 谢谢你的好意、不过、我已经有自己的决定了

(ありがとう、でも、私もう決定しました) (蚂蚁的梦想1:24:11)

※場面説明：会社で、相手（30代女性）の意見に対する、話し手（30代女性）の言葉である。

4.1.3 「尋ねる場面」

鄭（2009）は、日本語母語話者については「もしご都合がよろしければ」などといった「気配り発話」が多いことや「今日夕飯でも一緒にどう？」などといった相手の「意向」を尋ねる表現を多用していると指摘している。今回は中国語の会話用例において、「尋ねる」用例30例のうち、呼称の使用例が23例であった。

例⑨のような、呼称を使用せず、「詫び前置き表現＋疑問」があった。

益

また、例⑩⑪のような、「呼称＋疑問」もよく使用されている。また、中国語の“亲愛的”は「愛称」であり、会話例の二人は同僚関係にも関

ならず、親しい関係を持つ場合は「愛称」も使用されている。例⑩の場合、「呼称+前置き表現+疑問」という構造の用例である。

用例分析を通じて、中国語の会話において、時間と場面に関わらず、相手に何かを聞きたい時に、「呼称」と「詫び前置き表現」を使ったほうが聞き手はより喜んで教えてくれるのであり、話し手はより情報を得やすいということがわかった。また、適切な呼称を選択することが重要になると考えられる。

⑨ 对不起啊、请问这几天开的是什么会啊？

(ごめんね、最近何の会議をやってるの?) (格子间女人31:36)

⑩ A:亲爱的、你怎么了？(あなた、どうしたの?)

B:晓雨、我准备换工作了、我找了一家公益广告公司、虽然地方小点、也许勾心斗角的事就少了。(晓雨、私転職するつもりなんです、厚生広告会社は小さくて、互いに騙し合うことは少なくなるかもしれないよ。)(蚂蚁的梦想1:04:45)

※場面説明：会社で、会社員A(30代女性)が会社員B(30代女性)に話している。二人は同僚関係である。

⑪ 潘经理、能不能再争取一下？

(潘部長、もう頑張ってくれない?) (奋斗59:40)

※場面説明：会社で、会社員(30代男性)が上司(30代男性)に話している。

⑫ 大师、我就想问一句、我知道我错了、但我错在那儿了

(大师、聞きたいのですが、私は間違っていることを知ってる、でも、どこが間違っているの)(等风来23:27)

4.1.4 「意見表明の場面」

表2に示すように、中国映画に見られる前置き表現使用例においては、「意見表明」の場合では、呼称の使用が最も多く、32例である。以下の代表的な用例を取り上げ、分析する。

例えば：

⑬ 刘董、我觉得您现在应该再重新派一个人过来、我现在应该和我的团队在一起、我们那边真的很忙。(劉社長、もう1人応援に来させるべき、私は今自分のチームと一緒にいるべきだ、本当に忙しいから。)

(格子间女人32：13)

※場面説明：電話で、cheery（部下、20代女性）が刘董（上司、40代男性）に話している。

⑭ David、我有个事想跟你说说、我不希望苏晓雨调离创意部。

(David、話したいことがあるんですが、苏晓雨をクリエイティブ部門から転任したくないです。)

(蚂蚁的梦想11：12)

※場面説明：会社で、会社員（30代女性）と上司David（30代男性）との会話である。

⑮ 小程、我觉得你的幸福指数真的非常低。

(程ちゃん、あなたの幸福度指数は本当に低いと思う。)

(等风来10：15)

※場面説明：会社で、上司（30代女性）が部下小程（20代女性）に話している。

例⑬は、20代の部下は上司に意見を表明する際に、「すみませんが」「失礼ですが」などの前置き表現を使用せず、相手に呼びかけることを通して、敬意を示しており、その後意見表明を行う。ここでは、呼称の使用は自然であり、「すみませんが」などの前置き表現の使用は任意であると考えられる。

また、例⑭のように、中国人では、年齢が近い上司に対して、役職名のほか、フルネーム・名だけなどの呼称も使用されている。上司に対して、親族呼称・フルネーム・名だけを使用して呼びかけることがポジティブ・ポライトネス・ストラテジーと言える。

例⑮のような、中国語では、年下の同輩や部下に対しては、「小+姓」

の使用率が高い。日本語では、同輩や部下のいずれの相手に対して「姓＋さん」の形式で呼びかけことができる。中国語では、「さん」に相当する呼称は接頭語の「老」と「小」である。ただし、「老＋姓」は年上の人に対して、「小＋姓」は年下の人に対して使用されている。また、女性に対しては「老＋姓」を使用する人は少ない。

4.1.5 「状況説明の場面」

表2に示したように、呼称の用例が3割に達している。例⑯⑰⑱のように、呼称と前置きを用いて、その後状況を説明している用例がよく見られた。

例⑯の場合、会社員は主題の前に「詫び前置き＋親族呼称」両方を使用して、上司（相手）に配慮することが見られる。話し手が上司に親族呼称を使用している。このことは、本研究の「依頼場面」の調査結果と一致している。

例⑰は「呼称＋挿入語＋状況説明」という構造の用例である。司（2015）に従えば、中国語の“我跟你说”/“我告诉你”（あのさ）などの言葉は挿入語に属しているとみなした。中国語の場合、“我跟你说”/“我告诉你”は何か言いたい時に、会話の開始部分によく使われている。“我跟你说”/“我告诉你”は日本語に直訳すると、“あることをあなたに話したい”に対応するが、日本語の場合“あのね”“あのさ”に対応させるほうが自然である。司（2015）に従えば、例⑰の“我告诉你”は過去に言ったことを伝えるのではなく、聞き手に対して次に言うことに注意を喚起させることである。このような使い方は挿入語の用法である。話し手が先に「呼称＋挿入語」の言葉を用いて相手の注意を引き、状況説明の内容を集中させる。

例⑱のように、「呼称＋前置き表現＋状況説明」という会話の展開パターンは中国人がよく使用していると考えられる。

⑯ 不好意思，云妮姐，我有点不舒服，他来给我送药，他马上回去上

班

(すみません、云妮姐、私ちょっと調子が悪いから、彼は薬を送ってくれたんだ、すぐ会社に戻る) (奋斗45:45)

※場面説明：会社のパーティーで、部下（20代女性）が云妮姐（上司、30代女性）に話している。

⑰ 叶立峰，我告诉你、公司的章程规定了、人人平等、谁都不能搞特权、搞分化。

(叶立峰、あのさ、会社規則によって、すべての人に平等で、誰でも特権を持つことはできません、差別化に従事することもできません。)

(蚂蚁的梦想53:56)

⑱ 各位同事，跟大家宣布一个消息、经过总公司审核并同意、Eric、也就是程伟业先生、正式成为我们创意部门的ACD

(皆さん、伝えたいことがあります、本社の審査を通して、Eric、程伟业、正式にクリエイティブ部門のACDになります)

(蚂蚁的梦想12:04)

5. 考察

5.1 上下・親疎の関係から見る呼称

本研究の分析を通じて、日本語では、上下・親疎ともに同じように影響しているのに対し、中国語では、上下関係より親近関係が影響を及ぼしている。中国語において、上下関係より親疎関係が、親近感を示す「ポジティブ・ポライトネス」、距離を置く「ネガティブ・ポライトネス」の度合いに影響を及ぼしている。それについて、以下の用例を見よう。

⑲ A：斌斌（ビンビン）

B：曲先生、请你别这么叫我、你可以叫我谭小姐或者叫我谭斌

(曲さん、こんな呼ばないで、ミス・タン、タンビンと呼んで)

(格子间女人16:39)

※場面説明：喫茶店で、30代男性Aと20代女性Bの会話である。以前は

恋人だった。

⑳ A：随便跟你聊聊、我觉得你很不错、虽然我只是暂时的监管你们销售部门的工作、但是我很认可你的工作。（何気なく一言ですが、あなたが優秀な人と思って、私は一時的に営業部の仕事を担当するだけでも、あなたの仕事を認めるよ）

B：谢谢刘董夸奖。（刘社長、ありがとう）

A：别叫我刘董了、以后叫我kenny吧

（劉社長呼ばないで、これからkennyと呼んでね）

（格子间女人28：42）

※場面説明：会社で、刘董（A上司、40代男性）とCheery（B部下、部門經理、20代女性）の会話である。

㉑ A：总监，我很抱歉、这次创意被盗用责任在我、不管公司有什么样的处分、我都愿意接受。（部長、申し訳ありませんが、今回私のせいでアイデア盗まれてしまって、どんな処分をいただいても文句言わないです。）

B：Rain、以后叫我david（Rain、これからdavidと呼んで）

（蚂蚁的梦想6：54）

※場面説明：会社で、Rain（A会社員、30代女性）とDavid（B上司、30代男性）の会話である。

㉒ David、我觉得我现在的能力还不够、希望再慎重的考虑一下。

（David、私の能力が足りなくて、慎重に検討してください。）

（蚂蚁的梦想1：02：43）

※場面説明：会社で、Rain（会社員、30代女性）がDavid（上司、30代男性）に話している。

例⑲の場合、話し手と聞き手は以前恋人関係だった。別れてから久しぶりに会い、話し手（30代男性）は相手の名だけ呼びかけることによって、相手に親近感を表している。話し手の「ポジティブ・ポライトネス」

☆

心理を観察できる。しかし、相手（20代女性）は納得できず、「氏名」または「姓+小姐」という呼びかけ形式で呼ばせる。話し手が自分の名だけと呼ぶことに対し嫌な気持ちになり、話し手のポジティブ・フェイスを否定することになる。

例⑳と例㉑は、職場で、今後呼称の変更を通して、相手との「社会距離」や「親近感」を小さくさせたいということである。ここでは、上下関係、年齢より親近関係が影響を及ぼしていると考えられる。

さらに、例㉒のように、中国人では、年齢に近い上司に対して、フルネーム・名だけを使用して呼びかけることがポジティブ・ポライトネス・ストラテジーと言える。本研究の「意見表明」の場面で例㉓の分析結果と一致している。

5.2 中国語の親族呼称

親族呼称とは、生物学的に関係である血縁関係や社会的関係である婚姻関係からなる親族に対する呼び方をいうが、これを親族以外の人に対して使うことを親族呼称の虚構的用法という（ト2004）。

また、劉（1999）によると、呼称は、一般的に「社交呼称」と「親族呼称」に分けられている。社交呼称は時代背景に大きく影響される。時代性が最も強く、その時代その時代に新しい呼称が多く生まれてくる。それに対して、親族呼称は比較的安定している。それは血縁関係が基盤となっているからである。親族呼称は、地域性はあるが、時代性はそれほどなくて、使い方も相対的に固定しており、変動が比較的少ない。親族呼称は「面称」（向かい合った時の呼び方）と「背称」（会話の場にはない人物に対する呼び方）に分かれているが、社交呼称にはその区別はない。劉（1999）は以下のように述べている。

中国人は親戚と会うとき、相手のことをなにも呼ばず、ただ「こんにちは」のような挨拶をするだけでは、非常に失礼なことになるので、必ず下の世代に、これから会う人のことをどう呼ぶべきかを教えるのであ

る。そのこともあって、中国では言葉を習得し始める子供にまず教えるのは親族呼称である。そこで、親族呼称は、中国語の待遇表現の中で重要な位置を占めている。この種の用法は中国言語文化の特徴の一つであって、それを通して、コミュニケーションに参加する話し手と聞き手との相互関係を把握することができるし、また話し手の心理的な態度を察することができるのである。

さらに、陳（2001）は、親族呼称の使用状況によって、日本の人間関係においては「ウチ・ソト」の区別をはっきりさせて、「ウチ」の社会では「上・下」の意識が強く働いているが、中国人の場合には血縁関係、地縁関係を非常に大切にする傾向が見られる。中国の「目上」と「目下」の関係は男系と女系、長と幼といった歴然とした秩序と同様に二極対立して、完全に同化されることなく人間の基本的秩序を構成していると述べている。

本研究の調査結果では、例②③④の“mini姐”“胡妈妈”“潘爷”などのような話し手が親族以外の人（血縁関係がない人）にも親族呼称を多く使っていることがわかった。

例えば：

② A：比赛的那件事情、我帮你争取到了、不过我们只有20%的资金、你可一定得赢、我可是拿了 my 职位跟我这张老脸帮你争取到的。

（試合のことですが、資格を取れたけど、資本金は20%しかない、だから必ず勝ちなさい、私のポジションや顔面で取れたもんだよ）

B：潘爷、我爱死你了。（おじいちゃん、愛していたよ）

（奋斗1：05：35）

※場面説明：会社で、上司A（30代男性）と会社員B（30代男性）の会話である。

③ 对不起啊、胡妈妈（こめんなさい、お母さん）

（蚂蚁的梦想1：09：56）

大

※場面説明：福祉ホームで、30代女性が60代女性に話している。話し手

は孤児だが、小さい頃から福祉ホームで育っていて、聞き手によって世話されていた。聞き手は福祉ホームの管理者である。

例⑳の場合、職場で、会社員は上司に親族呼称を使用している。中国語の「潘爷」は、文字から見ると、「姓+おじいちゃん」であり、日本語に直訳すると不自然だが、日本語の場合、「おじいちゃん」に対応させるほうが自然である。しかし、日本語の場合から見ると、話し手と聞き手の年齢が近い、「おじいちゃん」という呼び掛けは不適切である。ここでは、中国語の場合は、「姓+おじいちゃん」という呼称は自然である。なぜならば、聞き手は話し手のために「試合の資格を取れた」ということで、話し手の「喜び」や「興奮」の感情・心理が見られる。「おじいちゃん」という親族呼称を通して、聞き手という遠かった心理的な距離を、親族関係というごく近い距離まで縮めた。話し手は聞き手に対して尊重を表して、親近感も表しているからなのである。

例㉑は、話し手と聞き手は血縁関係がなく、話し手は聞き手に「胡妈妈」＝「姓+お母さん」という呼称を使用している。話し手は孤児だが、小さい頃から福祉ホームで育っていて、聞き手による世話されていた。話し手は聞き手との親近関係を認識されると見られる。

以上のことを通じて、相手に対して上位親族呼称を使うことで相手を見上げることになり、相手を丁寧に扱っているという心理的な合図であるということがわかった。

これについて、中国語の親族呼称の虚構的使用を、ト(2004)は次のように述べている。

中国語の親族呼称の虚構的使用は、先ず自分と相手との世代差や年齢差を測って使うのである。目下の人には、中国語は自分から測るのに対し、日本語は他人から測る。この点の違いは、尊敬を前提にしているかどうかにある。例えば：テレビ局の Reporter が畑仕事をしている男性に向かって「お父さん」と呼んだり、また幼稚園の先生が園児の親を「お母さん」と呼ぶようなことは中国語では許されない。尊敬原理に合

わないのである。中国語の場合は、親族以外の人に対し“叔叔(shushu、おじさん)”(父親より年下の男性)、“大爷(daye、おじさん)”(父親より年上の男性)と呼ぶのは、尊敬(polite)、親密(intimate)の意味があり、特に幼少時から付き合っていた近所の人や親の友達か同僚に対する場合は、一生変わらない呼び方になる。逆に、そのように呼ばないと、社会的礼儀に反することになり、人間関係がうまく行かない。一方、道で会った面識のない親の世代の人には、やはり中学生位までの子供は“叔叔”と呼び、大人は同じ社会の一員としての姿勢から、社会的敬称の“先生(xiansheng)”を使う。しかし、田舎の畑仕事をする親の世代の人には“大爷”か“大叔”と呼ぶだろう。これも親族呼称の虚構使用の尊敬と親近原理に合った表現である。日本語の「おじさん」は、尊敬の意があるかは疑問であり、むしろ、人を貶すような使い方にもなるのである。しかし、親近を表す機能がある。また、世代や年齢差を示すパラメーターのような呼び方として使われる便利な一面があろう。

5.3 呼称と尊敬

本研究では、呼称を通して、尊敬を表す用例がよく見られた。

陶(2015)は、辻村(1992:551)を基に、「現代日本語における人称代名詞は、特に呼び掛けに用いられる場合、「あなた」「あんた」「君」「お前」「貴様」等の言葉にしても、その待遇価値は決して高くないようである。それに対して、地位名、職名等が、尊敬関係に用いられることは、社長、部長、親方等の言葉が、いずれもそのまま相手に対して敬意を持った呼び掛けに用いられると言う事実からも明らかであろうと言っている。

また、陶(2015)は、中国語では、“您”は中国語の第二人称であり、日常生活によく使われる。例えば、“承蒙您如此关照、实在不敢当。”(こんなにおもてないしいただいては、却って恐縮いたします。)”“您”は一般的に、地位が高い人や親しくない人に呼び掛ける時に用いられる

点

敬語である。地位の高い人が地位の低い人に呼び掛ける時に用いると、特殊な敬意を表わすことになる。一言でいえば、呼称は中国語における丁寧表現の一つの特色であろうと述べている。

一方、高木・宋（2012）は、敬称の“您”は、敬意を表す二人称代名詞であるが、このタイプの組み合わせでは、尊敬の意味は失われ、皮肉の意味に変わっている。例えば、「您李主任（李主任）」や「您王老板（王社長）」などでは、主任・社長に対し尊敬の意を表すのではなく、風刺の意を表している。このことから、「二人称代名詞＋指示呼称語」の組み合わせは、話し手の聞き手に対するマイナス的な待遇意識の表れであると述べている。今回はこのような用例も1例発見した、例②⑤である。この用例は、前置き表現用例ではなく、風刺の意を表している用例である。会社員Aは積極的に自分の理想生活と夢を語っているが、記者BはAの心理と感情を考慮しない、言葉を短くさせたいという希望が伝えた。それに対し、Aは「你大爷」と回答し、「怒り」や「不満」などの感情が見られる。“你”は敬称の“您”の普通体であり、本研究の5.2に書いた“大爷（daye、おじさん）”（父親より年上の男性）と呼ぶのは、尊敬、親密の意味がある。このことから、「你大爷」について、中国語では、悪口として使用されている。一方、すべての「二人称代名詞＋親族呼称」の組み合わせは悪口ではなく、「你大爷」のみである。

②⑤ A：我梦想中的城市、是可以容纳不同人的生活、承载不同人的梦想、每一个家庭就是一个马托邦…（私の理想な町は、違う人々の生活を受け入れることができ、人々の夢を載せる。すべての家族は理想郷と思うよ）

B：陆先生、这篇报道一共有五百字、有100个人参加、我每个人都需要采访一下、你能不能稍微浓缩一点、就当是给年轻人的一些建议、五个字吧（陆さん、このレポートは合計500文字で、100人が参加しているんですよ、一人ずつ取材する必要があるから、ちょっと内容を縮めないか、若者にアドバイスとして、5文字にして）

A：我去、你大爷（くそやろー） （奋斗7：33）

※場面説明：インタビューで、会社員A（30代男性）と新聞社の記者B（30代男性）の会話である。

5.4 力と仲間意識

Holmes（1992：297）は次のように論じている。 Making decisions about what is or is not considered polite in any community, therefore involves assessing social relationships along the dimensions of social distance or solidarity, and relative power or status.（どの社会でも、何が丁寧と見なされ、何がそうでないと見なされるかを決めることには、社会的距離或いは連帯の度合い、及び相対的な力関係や地位の諸次元に沿った社会関係の評価が含まれる。）

相手とのコミュニケーションをうまくするために、適切な呼称を選択しなければならない。人間関係はコミュニケーションに影響する大きな要素は「力関係」と「連帯意識」であり、コミュニケーションする際に、呼称の選択も「力関係」と「連帯意識」によって決定されている（Brown and Gilman 1960）。日本人は集団意識が強く、上下関係、ウチ・ソト関係を重視するが、中国人は血縁関係、地縁関係を重視し、職場においても連帯意識を重視するとされている（劉2017）。これについて、本研究の調査結果では、中国語の場合、親近度および距離度には、上下関係より親近関係が影響を及ぼしている。また、呼称の選択には、相手との上下関係だけではなく、親疎関係・血縁関係も大きな要因となっていることが明らかになった。

また、東（2011）は、相手と自分の間の力関係が私たちの話し方に影響する。相手のほうが力があるか、それとも自分があるか、あるいは同じか、この力の要素（話し手と聞き手の相対的権力）が、私たちの言葉についての人間関係を形成している要素の1つと言える。仲間意識という要素が私たちの話し方に深くかかわっていると述べている。

a. 力の要素（話し手と聞き手の相対的権力）

仲間意識（相互的な関係、お互いに親しみを共有する）

- b. 仲間意識を表す言語形式として、人称代名詞である。
- c. 親族を示す言葉がきわめて効果的に使われている。

更に、親族関係を表す言葉を使うことによって、親しさ、仲間意識、連帯感を生み出し、ひいては客とのビジネスをうまく成功させようという目的のためだ。客と店員との心理的距離感を最小のものにするためのきわめて有効的な言葉の使い方である。言葉の持つ力と仲間意識のうち、仲間意識の役目をうまく使った方法である（東2011）。今回の調査によって、親族呼称の使用が考察されることを通し、以上のようなことも見られた。

6. まとめ

今回は、中国の映画を研究資料とし、各映画に現れた前置き表現としての呼称の用例を考察した。また、「依頼」「断り」「誘い」「尋ねる」等という言語行動について、場面の異なりや親疎関係等の社会要因が与える影響の分析を行うことによって、それぞれの言葉に潜んでいる文化的要因や社会、および心理の要素等社会言語学の観点から考察した。以下のことが明らかになった。

まず、会話における、場面によって呼称が用いる前置き表現をまとめた。また、各場面における呼称が用いる前置き表現用例を分析した。中国語の用例分析によって、以下のことがわかった。

「依頼」の場合では、呼称の使用例が3割に占めている。依頼場面では呼称の選択には、相手との上下関係だけではなく、親疎関係・血縁関係も大きな要因となると考えられる。

「断る場面」において、上下関係に関わらず、始めに感謝の意を示してから、直接断りのほうが相手にとって、やわらかく聞こえ、納得しやすい。呼称の使用は任意であると考えられる。

時間と場面に関わらず、相手に何かを聞きたい時に、「呼称」と「詫

び前置き表現」を使ったほうが聞き手はより喜んで教えてくれるのであり、話し手はより情報を取得しやすいということがわかった。適切な呼称を選択することは重要になる。

「意見表明」の場合では、呼称の使用が最も多く、32例である。意見を表明する際に、呼称の使用は自然であり、「すみませんが」などの前置き表現の使用は任意であると考えられる。

呼称と前置きを用いて、その後状況を説明している用例がよく見られた。

次に、今回の調査による考察することを以下にもとめた。

日本語では、上下親疎ともに同じように影響しているのに対し、中国語では、親近度および距離度には、上下関係より親近関係が影響を及ぼしている。中国語において、上下関係より親疎関係が、親近感を示す「ポジティブ・ポライトネス」距離を置く「ネガティブ・ポライトネス」の度合いに影響を及ぼしている。

中国語において、話し手が親族以外の人に親族呼称が多く使われる。他人という遠かった心理的な距離を、親族関係というごく近い距離まで縮めたからなのである。

呼称を通して、尊敬を表す用例がよく見られたが、「二人称代名詞＋指示呼称語」の組み合わせは、話し手の聞き手に対するマイナス的な待遇意識の表れである。

親族呼称の使用が考察されることを通し、親族関係を表す言葉を使うことによって、心理的距離感を最小のものにするためのきわめて有効的な言葉の使い方であり、言葉の持つ力と仲間意識のうち、仲間意識の役目をうまく使った方法であるということが分かった。

7. 今後の課題

今回は用例を分析することによって、中国語の前置き表現としての呼称の使用に注目したが、日中両言語の呼称についての対照分析を十分に

行えなかった。今後、上述の結果を踏まえ、より豊かな対照分析に基づく検討が必要であるとする。

参考文献

王 (2019) 「前置き表現に関する日中対照研究」 金城日本語日本文化 (95)、pp.15-39、2019-03.

文钟莲 (2017) 『中日言語行為対比研究—衝突与交融—』、中国国际广播出版社、pp.226.

北山環(2010)「呼称に見られる「建前」と「本音」—映画のビジネス場面における呼び名を分析して—」 語学教育部ジャーナル=Kinki University Department of Language Education journal (6)、pp.3-23、2010-03-01 近畿大学語学教育部

滝浦真人 (2007) 「呼称のポライトネス—“人を呼ぶこと”の語用論」 特集 語用論の新展開、言語12月 Vol.36・No.12、pp.32-39.

高木裕子、宋善花 (2012) 「対称詞の待遇性による使用制限—日本語・朝鮮語・中国語の社会言語学対照の観点から—」 実践女子大学人間社会学部紀要 第8集. pp.35-48.

卢万才 (2001) 「汉语会話的亲近表現」、汉语学习、pp.63-66.

中根千枝 (2005) 『タテ社会の人間関係：単一社会の理論』東京：講談社

鈴木孝夫 (1999) 『ことばと文化 私言語学』岩波書店

卜雁 (2004) 「呼称におけるポライトネス心理考察—親族呼称の虚構的用法に関する日・中・英語比較—」 淑徳大学社会学部研究紀要38. pp.313-328、2004.

芳賀綏 (1998) 『日本語の社会心理』人間の科学社

Brown, Penelope and Stephen C. Levinson. 1978. Politeness : Some Universals in Language Usage. Cambridge University Press

Holmes, Janet. (1992). An Introduction to Sociolinguistics. Longman.

- 劉穎 (1999) 「中国親族呼称の諸相—その成り立ちと転用」 成城文芸 (166)、pp.100-84、1999-03. 成城大学文芸学部
- 蒲谷宏、坂本恵(1991) 「待遇表現教育の構想」、『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』第3号、1990.3.25. pp.23-44.
- 張嬌 (2014) 「日本語会話における「前置き表現」の使用実態に関する考察」 遼寧師範大学・大学院 日本言語文学・日本語学
- 司紅霞 (2015) 『現代汉语插入語研究』、东北师范大学出版社
- 和田由理恵、堀江薫、北原良夫、吉本啓 (2008) 「日本語学習者の依頼におけるポライトネスストラテジー—日本語学習者の母語と日本語の比較—」 『東北大学高等教育開発推進センター紀要』第3号
- 周升干 (2013) 「断る場面における詫び表現について：中国の日本語学習者と日本語母語話者を比較して」 言語文化学研究.言語情報編 8. pp.71-86.
- 周升干 (2008) 「断る場面における「前置き表現」について—中国の日本語学習者と日本語母語話者の比較」 言語文化学研究 (3) pp.189-210, 2008-03.
- 鄭在恩 (2009) 「日韓の勧誘ストラテジーについて」 『言葉と文化』 (10)、pp.113-132.
- 東照二 (2011) 『社会言語学入門—生きた言葉のおもしろさに迫る』 改定版. 研究社印刷株式会社. pp.136-140.
- 陳露 (2001) 「現代日中両言語における親族呼称の対照研究」 千葉大学社会文化科学研究 (5)、pp.21-31. 2001.
- 劉寧 (2017) 「職場における呼称使用に関する日中対照研究」 東北大学言語学論集 (26)、pp.61-76,2017.
- Brown, R.and Gilman, A. (1960) The pronounsof power and solidarity. InT. A. Sebeok (ed) Style in language. MIT Press, pp.253-276.
- 陶琳 (2015) 「日本語、中国語、英語における呼称の対照研究」 言語文化論集 (19)、pp.59-84、2015-03.